

# 平成 26 年度事業計画

平成26年度は当連盟の目的とするアマチュア無線の健全な発達、科学技術の振興、災害の防止、国際相互理解の促進及びアマチュア無線家相互の友好増進を確実に進めて行くため、財政健全化策の一層の推進とともに一人でも多く会員になっていただくための施策を具体的にスタートさせる年とし、次のとおり事業を推進します。

## 1. 会員拡充への取り組み

現在JARL会員数は7万人を下回っていますが、平成6年当時は19万人を超える方が会員としてアマチュア無線を楽しむとともに、地域的技術的あるいは家族的なつながりをもった先輩からニューカマーの方まで、多様な仲間の中で楽しく興味深いコミュニケーションの輪が日本中にひろがっていました。

その時期から、インターネットや携帯電話などの通信手段の普及により、個人的なコミュニケーションの様相が一変し、この時期をピークとしてJARL会員数は減少に転じました。

会員減少に歯止めをかけ将来へ繋いでいくために、幾多の協議と多くの財政支出抑制策を試行錯誤し改善に取り組みましたが、効果的改革への即効薬はなく、会員減少が長期間続く結果となって現在に至っております。

このような状況下、地震、洪水、津波など大規模な災害が発生した際のアマチュア無線の活動は、人命救助や被害の軽減に資する社会貢献として、大きな理解が得られる状況も生まれてきております。

ここ数年、会員数減少のカーブはほぼ横ばいに近づき、短期的には増加へと転ずる月が出始めるようになってまいりました。そこで今後の会員拡充や会員継続を図るため、魅力ある事業や制度などの施策を実施するとともに、公益的社会貢献活動の取り組みを一層推進し、JARLをしっかりとした組織とするための活動を積極的に進めてまいります。

## 2. アマチュア無線活動の推進

- (1) アマチュア無線活動を推進していくため、地方本部、支部において、地域の特色を活かした行事により一般の方々へアマチュア無線の知識の普及と啓発に努めます。
- (2) JARLが開設する特別局や特別記念局の運用、アワード発行、コンテスト実施、D-STARシステムの改善検討、ARDF競技大会、アマチュア無線フェスティバルなどを実施し、アマチュア無線活動の活性化に努めます。
- (3) JARL NEWSおよびJARL Web、JARLメールマガジン、CQ ham radio誌掲載の「FROM JARL」によるアマチュア無線情報に関して、より充実した内容の提供に努めます。
- (4) アマチュア衛星など宇宙通信の促進のため、運用中や打ち上げ計画中の小型衛星に対し、衛星に関する技術や情報の提供に協力します。
- (5) ARISSプロジェクト(国際宇宙ステーション上の

アマチュア無線プロジェクト)への支援・援助をおこないます。また、ARISS組織の理事会にIARU加盟団体として引き続き代表を送り、このプロジェクトを推進するとともに、諸外国の宇宙通信計画にも積極的に協力します。

- (6) アマチュア衛星「ふじ3号(FO-29)」の運用情報を利用者に提供し、衛星通信の普及促進に努めます。
- (7) アマチュア無線関連団体として、公益財団法人日本無線協会(JRI)、一般財団法人日本アマチュア無線振興協会(JARD)ならびに日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)と密接な連携を進め、アマチュア無線の普及促進と健全な発展のための制度の改善、電波利用秩序の維持などに努めます。
- (8) JARDの養成課程講習会にあわせて開催するビギナーズセミナーに協力し、受講者へのアマチュア無線の運用方法などの周知に努めます。

## 3. 電波環境のクリーン化と混信妨害の防止

- (1) ガイダンス局の運用、各種広報手段を通じてアマチュアバンド使用区別の周知、法令の遵守を啓発します。さらに、総務省の各総合通信局と連携をはかりながら、ガイダンス局と規正局との合同運用を進めます。
- (2) アマチュアバンドの使用区別は、平成21年3月に改正されてから5年が経過しました。多くのアマチュア無線家の皆様のご意見を頂き改正案の取りまとめを行い、総務省に対し周波数使用区別の告示改正が円滑に進むよう対応作業を行います。
- (3) 電波環境のクリーン化では、外国からの短波放送等によるアマチュア無線への混信問題、インバータを使用した太陽光発電装置やLED照明、様々な分野で利活用が計画されているワイヤレス電力伝送システムなどの家庭用電子機器、通信機器などからのノイズ障害及びアマチュア無線が電子機器に与える電波障害等々に関して、新技術の実用化に注意を払い、関係機関と連携し適切な対応をはかります。
- (4) 日本では既に1億5千万の無線局が開設され、様々な新しい電波利用へのニーズにより周波数リソースが極めて逼迫しています。今後、さらに電波の利用が進むことが予測され、国は2020年までに2000MHzの周波数を確保する目標を掲げて周波数の再編を行っています。周波数の再編やデジタル化、ホワイトスペース等の活用により既に2011年までに500MHzの周波数を確保しました。今後、6年間で1500MHz以上の幅の電波を再編により確保して新しい電波需要に対応するとのこと。利活用状況の調査も着々と行われており、活用状況が低い無線システムについては廃止等の措置も考えられていますが、極力、アマチュアバンドに影響がないように適切な対応をはかります。
- (5) アマチュア無線が二次業務に指定されている周波数帯で、一次業務の無線システムとの干渉回避に

ついて、アマチュア無線が不当に不利にならないよう一次業務システム関係機関と連携し、適切な対応をはかります。

- (6) 2011年7月に完全移行した地上デジタルテレビジョンの普及によりテレビへの放送受信障害は激減しましたが、アナログVHF放送用のアンテナやブースターを流用している視聴者もいるため、電波障害が発生する懸念があり、受信環境クリーン協議会などと連携し、引き続き事例とその対策についての情報収集をおこないます。

#### 4. 会員数増強と会員事業の推進

- (1) 会員数の増強のため、つぎの事項を重点に進めます。

- ① 支部ごとの養成課程講習会開催の取り組みについては、地方本部ならびにJARLとの連携のもとに実施し、新しいアマチュア無線家の育成に努力します。また、上級資格の取得についても、積極的に奨励します。
- ② 日本無線協会の本部とその支部(全国10カ所)、JARLおよびJAIAなどの関連団体と協力体制をしき、初心者向け冊子やリーフレット配布などにより、アマチュア無線およびJARLの事業内容を紹介し入会を促進します。
- ③ 関連団体およびアマチュア無線専門誌の協力を得て、多くの方に入会を呼びかける会員数の増強キャンペーンを実施します。また、本年度もハムフェアの会場で入会キャンペーンをおこない、会員加入に努めます。
- ④ 大規模災害等の発生をとおして、アマチュア無線の有用性が改めて認識され、アマチュア無線復活の動きが徐々に広がりつつあります。ニューカマーのみならず、OMの方々、JARLライフメンバー(会費前納者)を含めたカムバック・ハムの身近なアマチュア無線を復活していくため、開局の働きかけとPR活動を進めます。
- ⑤ JARL QSLビューローへ送付されてくるQSLカードの中で、非会員あてに多量のQSLカードが届いている場合は、その非会員の方の入会を積極的に働きかけます。これと同時に、QSL転送事業の一層の効率化と新たな試みへの検討を進めます。

- (2) 会員事業の向上は、つぎの事項を重点的に進めます。

- ① 旅行、ホテル宿泊、引越料金および通信講座の割引制度など会員の特典となる事業の拡充に努めます。
- ② アンテナ第三者賠償責任保険(施設賠償責任保険)を継続し、安心してアマチュア無線を楽しんでいただけるよう努めます。

- (3) ICT(情報通信技術)を活用した事業は、次のとおり推進します。

- ① インターネットを利用した会員事業や情報提供の充実をはかります。
- ② JARL Webの内容拡充に努め、引き続きEメール転送、JARL販売品のオンライン販売、コンテストの電子ログ受付およびアワードの電子申請受付など、インターネット利用環境の整備に努めます。

- (4) 刊行物等の事業は、次のとおり推進します。

- ① アマチュア無線に関する各種申請書、その他のJARL販売品などについて効果的な販売促進に努めます。

- ② アマチュア無線に関する各種申請書、その他のJARL販売品などについて、事務局の窓口や通信販売、ハムショップ等での販売、インターネットでの販売など、様々な方法で購入できるよう会員の利便性の向上に努めます。

#### 5. 非常災害への態勢整備

- (1) 大規模災害の発生に備え、アマチュア無線を活用した側面支援のあるべき姿を検討し、万一の災害に備えます。
- (2) 非常災害時の迅速な対応に備えるため、臨時に貸し出す430MHz帯レピータ局装置と発動発電機の維持管理をおこない、非常時の態勢を整備します。
- (3) 非常時の態勢整備を図るため、非常通信協議会、地方公共団体および関連団体との連携を密にし、災害を想定した非常通信訓練を実施します。

#### 6. 青少年へのアマチュア無線活動の支援と身体障がい者への援助・協力

- (1) 青少年へのアマチュア無線活動の周知・支援については、地方本部、支部およびアマチュア無線関連団体が連携し、青少年に対する科学啓発イベントへの積極的な参加や協力をおこなうほか、つぎの事項を重点的に推進します。

- ① 一定条件の小・中学校の社団局、JARL登録クラブ(学校クラブ)の高等学校社団局への会費助成を引き続き実施し、将来の科学や情報技術などを担っていく人材育成を支援し、青少年のアマチュア無線活動への参加を促進します。

- ② 青少年の宇宙開発や通信技術への興味とともに、アマチュア無線の楽しさに触れる機会を提供するため、ARISSスクールコンタクトについて積極的な支援・広報活動をおこないます。

- ③ アマチュア無線とスポーツの楽しさを併せ持ったARDF競技をとおして、青少年の電波科学への興味を促進するよう参加拡大をはかります。

- ④ 子供たちのアマチュア無線に対する興味を喚起する教育的な要素を取り入れたパンフレットの制作と配布をおこないます。

- (2) 身体障がい者のアマチュア無線活動を充実したものとするため、点字JARL NEWSの発行、身体障がい者の団体等が開設する社団局への会費の助成をはかり、運用上の援助と協力をおこないます。

#### 7. 国際協力の推進

- (1) IARU(国際アマチュア無線連合)などとの連携を緊密にし、ITU(国際電気通信連合)およびAPT(アジア・太平洋電気通信共同体)の国際会議をとおしてアマチュア無線の発展に努めます。

- (2) 国際非常通信訓練やARDF競技大会などへの参加により、各国アマチュア無線連盟との友好親善に努めます。



以上のほか、各種事業の推進・維持のために効率的な事務局業務の実施体制強化を積極的に進めてまいります。